

和歌山病院での実習を終えて



伊藤 整

和歌山県立医科大学第三内科の実習の一環として、2018年5月15-16日和歌山病院で実習させていただきました。セミナーの他、結核病棟の見学等、大学内の実習だけでは体験できない貴重な体験となりました。

南方院長のセミナーでは胸部レントゲンの原理や読影について詳しく教えていただきました。普段の学校の講義や教科書での勉強だけでは単に暗記になってしまうことに関しても、なぜそう見えるのかという根本的な原理を教えていただき、非常に納得してレントゲンの読影を理解することができました。以前から持っていたレントゲンへの苦手意識を払拭する非常に有意義な機会をいただけたと感じています。

駿田副院長のセミナーでは結核の感染様式と感染予防策を主に結核についての理解を深めることができました。風疹も結核も飛沫感染するにも関わらずなぜ風疹は接触感染もし得て結核は接触感染し得ないのか等、国試の勉強だけでは身につかない非常に実践的な知識、原理を教えていただきました。

また実際に結核病棟の中も見学させていただきました。二重扉や陰圧のかけ方によって感染予防策が工夫されていることについて実感をもって理解することができ、また正しい予防策をすることで結核の感染は確実に防ぐことができるのだと改めて感じました。

いずれのセミナーや見学においても先生方が一方的に学生に教えるのではなく、学生が考えるように講義していただいたことで、深く理解することができ非常に記憶に残る実習となりました。教科書でさらっと書いてあることでも、実際に考えればなぜそうなるのかということには深い意味があり、考えることの重要性を改めて痛感させられました。つい暗記になりがちな勉強の中でも考えることを意識していきたいと思います。

最後になりますが、お忙しい中このような機会を与えてくださった先生方、スタッフの方々には感謝の念に堪えません。2日間という短い間ではありましたが、貴重な経験をさせていただきありがとうございました。